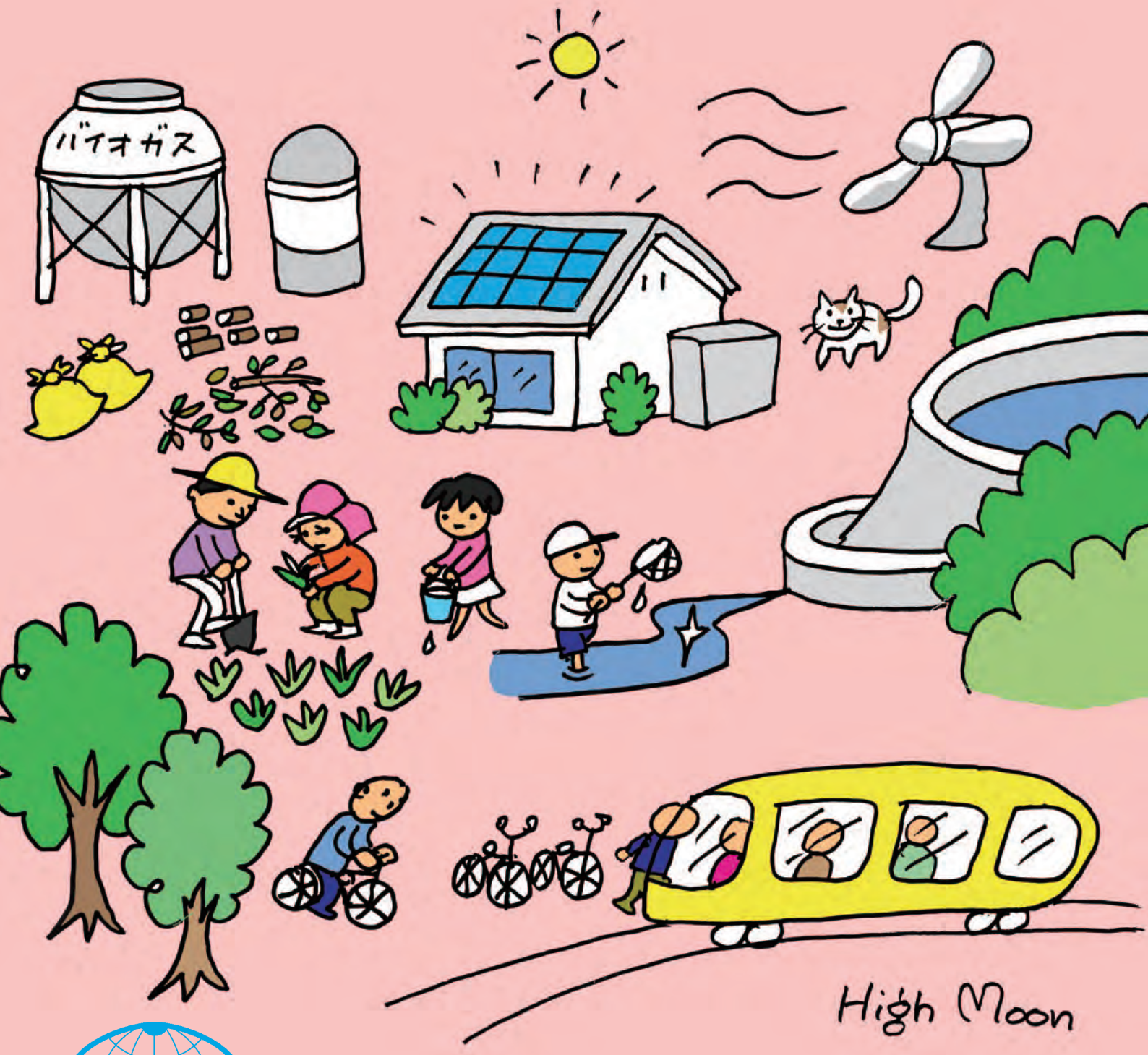
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

2016 年度

事業報告書



編集・発行方針

「持続可能な地域社会の実現」を目指して

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（以下、「協会」という。）は、2001 年 2 月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京エコロジーセンター（以下、「センター」という。）の指定管理者等の活動を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会の実現」を目指して、事業運営を行っています。

本報告書は多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しています。

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会　2016 年度　事業報告書

対象期間　2016 年度（2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日）の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。

発 行 日　2017 年 7 月

発　　行　公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

もくじ

理事長のメッセージ …… 2

協会の概要 …… 3

環境学習・環境保全活動支援事業 …… 4～20

京エコロジーセンター

【環境学習・環境保全活動支援事業】

プロジェクト 1
いろいろな主体が学び、育つステージの提供

1-1　館内・館外の環境学習プログラム開発・実践 …… 6

1-2　環境ボランティアの育成・支援 …… 9

1-3　子どもから大人まで環境人づくり …… 11

プロジェクト 2
いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

2-1　地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携 …… 14

プロジェクト 3
持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

3-1　情報発信・広報対策 …… 15

3-2　イベント（プログラム）の企画・実施 …… 17

地域環境活動支援事業　21～22

国際事業 …… 23～24

その他協会事業 …… 25～28

事業運営体制 …… 29

パートナーの声 …… 31

協会まとめ …… 32

協会・エコセンの歩み …… 33

協会紹介 …… 34

理事長のメッセージ

「量から質へ、活動内容の充実を！」

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
理事長　高月　紘

当協会は、公益法人として発足以来４年目を迎えています。2016 年度はセンターへの来館者が年間 10 万 1 千人となり過去最高を記録しました。これは、協会職員やエコメイトさんらの地道な活動と市民が関心を持ちそうな様々な企画を打てた成果だと評価し、協会の活動に協力いただいた方々に感謝しています。さて、このように京エコロジーセンターという施設への来館者数という一つの目安は、それなりに伸びては来ていますが、これをもって、協会の活動に満足できるかと言えばそうではありません。ご存知のように、協会の事業内容も指定管理事業であるセンターの運営に加えて、京都市の委託による「エコ学区事業」やＪＩＣＡ（国際協力機構）の委託による「国際事業」など、新しい事業が活発化し始めています。これらの事業は必ずしも、センターへの来館者数の増加には結びつきません。しかし、活動内容は地域の人々とのコミュニケーションや国際協力の活発化という協会として重要な事業を担っています。したがって、これらの事業については新たな評価方法を検討しなければならないと考えています。いずれにしても、これからの協会の活動内容は単なる参加者の量（数）だけでなく、質、すなわちどれだけの人に本当に環境マインドを伝えることができたかを問わなくてはならないと思っています。今後とも、協会の活動にご理解とご支援をお願いします。

作者註：環境意識の高い人か否かは、行動を見なければわかりません

協会の概要

当協会は、持続可能な社会（低炭素社会･循環型社会･自然共生社会）を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的に設立された法人です。

この目的の達成のために、環境意識の普及・啓発、環境情報の発信、環境保全に関する調査･研究、環境教育及び人材育成、環境保全のための市民、事業者等との連携･支援、環境意識の向上のための国際的な連携・支援、環境保全活動に関する施設の管理運営等を、市民・事業者・行政・教育機関とのパートナーシップに基づき行っていきます。

■ミッション

持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。

○私たちは、環境ボランティアを始めとした、人材育成講座を中心に展開し、環境保全活動を始めるベースを身に付けた人を増やし、実際に活動の場を提供し、自主的に活動を展開できるスキルを身に付ける支援をします。

○私たちは、活動する場が増えるよう、京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、多くの人材が自主的に活動を展開し、個人や団体の活動の輪を拡げることを支援します。

○私たちは、様々な場所で展開される新たな環境保全活動を充実したものにするため、育成した人材が携え、様々な場所で展開されていくようなプログラムを開発します。

○私たちは、多くの場所で環境保全活動が展開されていくために、人材育成・支援、活動の場創り、ソフト開発で得たノウハウ、成果を国内外に発信します。

■ビジョン

1：京都における環境保全活動に参加・参画する人の輪を広げ、毎年多くの環境人材を輩出しています。

2：京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になります。

3：活動に活用される環境教育プログラムなどのソフト開発と普及の役割を担っています。

4：私たちの活動の成果やノウハウを世界に発信し、国際的にも環境教育・環境保全活動の推進に働きかけられる存在になります。

■6 つの方向性

①地域社会との連携を深める

②パートナーシップをこれまで以上に

③人材育成

④京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化

⑥発信力の強化

環境学習・環境保全活動支援事業	京都市の環境学習施設「京（みやこ）エコロジーセンター」の指定管理業務を行い、様々な 環境学習プログラムを展開しています。
地域環境活動支援事業	京都市の「エコ学区に係る学習会等支援業務」を受託し、地域コミュニティの相談窓口「エコ学区サポートセンター」を運営しています。
国際事業	これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受け入れや技術移転を行っています。
その他事業	環境学習施設運営やボランティア制度構築をご検討中の方々向けに、運営ノウハウの提供や制度設計のコンサルテーションを行っています。 また、ワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣も行っています。

環境学習・環境保全活動支援事業

将来像及び実現のための事業分野と方向性・事業プロジェクト一覧

京エコロジーセンターの将来像

「持続可能な地域社会」の実現に向け、多くの国内外の子どもや大人、事業者、学生、NPO が集い、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を担う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」になっている。

PROJECT 1

いろいろな主体が学び、育つステージの提供（人づくり、場づくり、仕組みづくり）

【方向性】

- ◇ 京エコロジーセンター独自の楽しい環境学習プログラムを NPO、事業者、専門家等のパートナーシップにより開発する。
- ◇ 技能や知識を持った専門スタッフや環境ボランティアが、その場に応じて学習プログラムを実施する。
- ◇ 京エコロジーセンターや地域で活動する多様な環境ボランティアを育成する。
- ◇ 子どもや親、教師、事業者などの「大人」を対象とした環境学習の機会を設け、繰り返し参加できるようにし、環境意識の向上をはかる。
- ◇ 市内の多様な自然環境や環境関連施設を活かして、京都市全域をフィールドとした活動を実施する。

1－1　館内・館外の環境学習プログラムの開発・実践
1－2　環境ボランティアの育成・支援
1－3　子どもから大人まで環境人づくり

PROJECT 2

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携（支援・連携する場）

【方向性】

- ◇ 地域で環境保全活動を進める時に、必要な支援を受けたり連携できるような拠点となる。
- ◇ 環境保全活動をしている人たちの交流の場や機能を提供する。
- ◇ 環境に関心のある人や環境保全活動をしてみたい人たちが必要な情報を入手できる場や機能を提供する。

2－1　地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

PROJECT 3

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流（発信する場）

【方向性】

- ◇ 京都市の市民、学生、NPO、事業者、大学等教育研究機関、行政等のパートナーシップによる協働により、先進的な調査・研究・モデルプロジェクトの支援を行う。
- ◇ 京エコロジーセンターの活動や成果を、さまざまな方法や機会を通じて日本全国や世界に発信し、交流する。
- ◇ 世界や全国の環境に関する情報を収集し、市民にわかりやすく発信する。
- ◇ 広く市民に開かれた、環境コミュニケーションの場や機能を提供し、環境やエコセンに関心のある人を増やす。

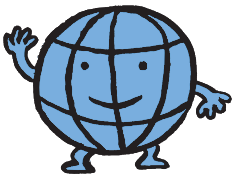
3－1　情報発信・広報対策
3－2　イベント（プログラム）の企画・実施

見て、触れて、感じる　体験型環境学習施設

京エコロジーセンター

京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）は、「地球温暖化防止京都会議（ＣＯＰ３）」を記念して、2002 年に開設された環境学習や環境保全活動の輪を広げるための拠点施設です。

地球温暖化やごみ、水、電気などをテーマにした体験型で学べる展示やかんきょう図書コーナー、屋上ビオトープがあり、建物自体もエコな展示となっています。環境ボランティア「エコメイト」が分かりやすく館内をご案内します。また、年間を通して楽しみながら環境問題を学び、考えるイベントも開催しています。ぜひみなさんでお越しください。



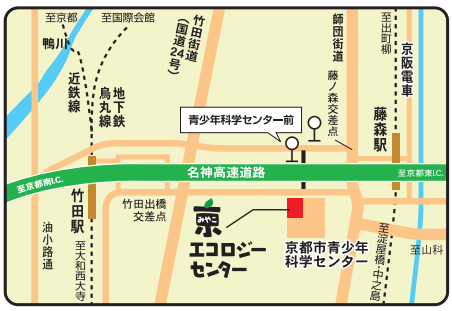
京エコロジーセンター
イメージキャラクター
「ちきゅまる」

〒 612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町 13
【tel】075-641-0911　【fax】075-641-0912

●アクセス
京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩約 5 分
地下鉄・近鉄「竹田駅」下車
東へ徒歩約 12 分
市バス 105・南 5・臨南 5・南 8
「青少年科学センター前」下車南へ約 2 分

●開館時間
9 時～ 21 時
（1・2 階展示は 17 時まで）

●休館日
木曜日
（祝日の場合は翌平日）



COLUMN
コラム

「年間来館者 2 年連続『10 万人』達成！！」

センターの年間来館者数が、2015 年度に続き、2016 年度も 10 万人を突破し、過去最高（101,869 名）となりました。記念すべき 10 万人目の来館者は、3 月 26 日にイベントを目的に来館された京都市南区の趙偉さん親子で、この日が初来館とのことでした。

この日は、材木や段ボールなどの廃材を使って、自由に工作するイベント「えこせんプレーパーク」を開催し、大変賑わっていました。毎月様々なイベントや見学の受け入れ等を行い、その積み重ねの結果、2 年連続での 10 万人を超える方に来館していただけたことは、大きな喜びです。

これからも楽しく環境について考えていただける様々な取り組みを行い、多くの方にご来館いただける施設にしていきたいと考えています。

環境学習・環境保全活動支援事業

京 エコロジーセンター PROJECT 1

いろいろな主体が学び、育つステージの提供

（人づくり、場づくり、仕組みづくり）

1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発・実践

2016年度 成果目標

【プログラム対応】
京都市内外への団体見学の広報や、それを受け入れられる体制を整えることで団体見学の参加者が増えている。

【プログラム開発】
既存事業や京都市青少年科学センターとの連携によりセンターのプログラムや展示の魅力を発信し、いつ来ても楽しめることが来館者に伝わっている。

【環境副読本】
京都市内の小・中学校における環境学習のツールとして環境副読本が認識され、活用されている。

【企画展示】
時期や来館者層に合わせた企画展を開催し、来館者が様々な面から環境への関心を持つきっかけを作る。
また、スタッフが企画展の案内やプログラムを実施することで、より来館者に企画展のメッセージが伝わっている。

プログラム対応

団体見学では、国内外から様々な団体の見学受け入れを行いました。年間受け入れ件数は、団体見学が 164 件 5,018 名、京都市立小学校を対象にしたセンター学習が 132 件 3,961 名、合わせて 296 件 8,979 名の受け入れを行いました。また、団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、京都市近隣の小学校や旅行会社を対象にした団体見学チラシをそれぞれ作成し配布しました。館外におけるプログラム対応では、京都市立小学校において出前授業を 1 回実施しました。

団体見学の様子

プログラム開発

3 階子ども広場に小さな子ども向けコーナーとして、日本のおもちゃ作家の木製おもちゃを中心に 20 種類以上のおもちゃを集めた「木のおもちゃひろば」を設置しました。また、一般来館者増加を目的にエントランス活性化プログラムとして、2 つのイベント「エコセンまるっとまるかじりスペシャルデイ」と「えこせんプレーパーク」を実施しました。あわせて職員によるミニプログラム「ちきゅまるひろば」（54 回開催、のべ 376 名参加）、「かえっこバザール」（6 回開催、のべ 1,412 名参加）も開催しました。

えこせんプレーパークの様子

環境副読本

小学 4 年生、5 年生、中学生向けの 3 種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間はもちろん、各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されています。また、小学 5 年生向けの環境副読本には、各テーマのインタビュー記事の掲載とあわせて、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

環境副読本インタビュー動画 URL：http://www.miyako-eco.jp/advice/

環境副読本

企画展示

年間で企画展を 12 件、関連イベントを 6 回開催しました。その内、共同主催型では NPO や事業者をはじめ 11 団体と企画展を開催しました。7 月からは食品ロスをテーマにした「食べものどうなっ展」、10 月からは SDGs をテーマにした「世界の目標 SDGs のはなし＆京都から私たちにできることを探そう！」を開催し、SDGs の紹介と合わせて、SDGs に向けた取り組みを行っている様々な団体の取組紹介を行うなど、最新のテーマについて情報を発信することが出来ました。

「もり森 もく木 りん林展」の関連イベントの様子

開　催　期　間	タイトル（共催の相手等）
6 月 1 日～ 6 月 24 日	共同主催型企画展示 「平成 27 年度（第 13 回）京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展」 （京都市環境政策局環境企画部環境管理課）
7 月 5 日～ 8 月 31 日	「電車に乗っておでかけしよう！アート×エコロジー 『布・ヒモから遊べる電車作り！』」作品展
7 月 13 日～ 9 月 28 日	「食べものどうなっ展」
7 月 13 日～ 8 月 31 日	共同主催型企画展示「素敵な漂流物も悲しいごみも～『海の京都』からの報告～」 （琴引浜ネイチャークラブハウス）
8 月 1 日～ 8 月 31 日	共同主催型企画展示「平成 27 年度（第 13 回）京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展」 （京都市環境政策局環境企画部環境管理課）
9 月 14 日～ 10 月 16 日	共同主催型企画展示「菴連也展及び広友グループ環境活動紹介展」 （広友ホールディングス株式会社）
10 月 1 日～ 12 月 25 日	共同主催型企画展示 「世界の目標 SDGs のはなし＆京都から私たちにできることを探そう！」 （認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス、認定 NPO 法人アクセス、公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）、JICA 関西、京都市職員国際協力研究会 arco iris、京のアジェンダ２１フォーラム）
10月19日～ 10月26日	共同主催型企画展示「第 32 回京都まちとみどり写真コンクール展示会」 （京都府都市計画協会）
11 月 2 日～ 11 月 27 日	「環境カレンダー原画展」
11 月 2 日～ 12 月 25 日	「マンガで見る世界の国と温暖化展」
1 月 7 日～ 1 月 31 日	共同主催型企画展示「『海のエコラベル』を知っていますか？～持続可能な漁業の証・MSC と『海のエコラベル』展～」（海洋管理協議会（MSC））
2 月 10 日～ 3 月 26 日	「もり森 もく木 りん林展 ～山の木から、暮らしの木まで～ 」

COLUMN
コラム

木と触れ、木と親しむ空間　木のおもちゃひろば OPEN ！

3 階こどもひろば内に「木のおもちゃひろば」を設置しました。幼いうちから木に親しみ、木の良さを知り、身近なところから暮らしに木を取り入れるきっかけを作ることを目的にしています。また、未就学児の親子の方が過ごすことのできる場所を充実させることで、より多くの方にエコセンを知っていただき、ご利用していただくことも目的にしています。

木のおもちゃひろばには、20 種類以上の「国産材を使用しているおもちゃ」や「日本の作家が作ったおもちゃ」を設置しました。

主な対象にしていた未就学児の親子を中心に、休日はもとより、平日も木のおもちゃひろばを目的に、多くの方にご来館していただき、「木の香りがして心地よい」「木のおもちゃに触れる機会が少ないので、うれしい」といったお声をいただきました。

これからも、木のおもちゃを通して、身近な木や日本の森に興味を持つことや、木を通して環境について考えてもらえるような空間を目指して、充実させていきたいと思います。

COLUMN
コラム

「世界の目標 SDGs のはなし＆京都から私たちにできることを探そう！展」を開催

2016 年 10 月 1 日（土）～ 12 月 25 日（日）の期間で、京都の様々な国際協力系団体と協力して、SDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）に関する企画展を行いました。同企画展では、世界が取り組むべき課題と目標をあらわした SDGs を、より多くの市民に知ってもらうとともに、SDGs に向かって取り組む京都の国際協力系団体の活動を紹介し、市民一人一人が取り組めることを考えるきっかけづくりを行いました。SDGs では気候変動やエネルギーなどの環境に関する目標が複数掲げられており、協会やセンターが進める取り組みを考える上でも注目される目標となります。

同企画展では、パネル展示の他に「SDGs に向かって自分たちにできること」を表現するワークシートも用意し、「目標に向かって一人一人が努力すること」や「京都だけではなく、日本で、世界で発展すること」等の SDGs を考える上で大切なポイントを押さえたコメントをもらうことができました。また、12 月 10 日（土）に実施した同企画展の関連イベントには計 72 名の参加があり、企画展協力団体の海外での具体的な活動紹介や、現地で使われている材料を使った工作教室を通して、SDGs をより身近に感じてもらうことができました。

1-2 環境ボランティアの育成・支援

2016年度
成果目標

京エコロジーセンターの新たな環境ボランティア制度が確立され、その制度に基づいてボランティアマネジメントが行われている。

新規養成講座

センターの環境ボランティアとして活動するために必要な知識や考え方を学ぶ新規養成講座を、1月～3月の期間に全5回（6日間）及び実習（12日間）を開催しました。講座では、ボランティアについて、またセンターや環境問題についての基本的な知識を学びました。その他にもコミュニケーションや環境学習プログラムづくりを体験し、実践するワークショップを行いました。講座受講者25名のうち、20名が登録しました。

講座の様子

ステップアップ研修

環境ボランティア活動がより充実したものとなるよう、1年目から3年目までの活動年数に合わせて、活動に必要な知識や技術を習得することができるよう、研修を企画・実施しました。電気や水、ごみ、地球温暖化などの環境問題の知識を得るためのものや、来館者とのコミュニケーションの取り方、環境学習プログラムのつくり方など、様々なテーマで全8回のステップアップ研修を実施しました。

研修の様子

マネジメント全般

環境ボランティアは、自ら環境に配慮した暮らしを実践するとともに、ガイド活動・グループ活動・サポート活動という3つの活動を通じて、環境に配慮した暮らしを伝えていく役割を担っています。その役割を十分に果たせるように、ボランティア全体に共通する場・ツール・コミュニケーションチャネルを整備し、それらを活用してボランティアのモチベーションの向上や活動における課題解決を図りました。

ボランティア全体会の様子

COLUMN
コラム

「ボランティアの主体性を活かした、多様な活動の展開」

センターの環境ボランティア活動には、興味・関心に合わせてグループをつくり、自主的に活動を展開していく“グループ活動”があります。グループ活動では、社会やセンターの課題を解決するために、環境ボランティアが、市民ならではの視点で様々な自主企画を行っています。

2016 年度は、【環境イベントの実施】【図書コーナーの活性化】【ボランティア同士の交流】などを目的とする 5 つのグループが立ち上がり、1 年間で計 14 件の自主企画が行われました。

環境イベントでは、省エネやごみ減量・食料問題などの幅広いテーマのイベントを実施することができました。また図書コーナーの本を紹介する POP づくりやエコクッキングを通じたボランティア間の交流会など、センターの機能を高めるような活動も積極的に行われました。

そうしたボランティアの主体性を活かした活動によって、センターとして、職員だけでは実現できない多様な活動を展開することにつながりました。

パートナーの声

新規養成講座を受けて

PARTNER

新規養成講座を受講したことで、環境問題と私達の暮らしとの繋がりを色々な角度から学ぶことができました。

暮らしの中で、無駄を省き、ちょっと工夫することで、無理なく楽しくエコを実践できることが分かり、来館者の方にもぜひこの「気づき」を伝えたいと思いました。講座中、参加者と共に企画した環境学習プログラムを実演する際には、問いかけをしながら解説することの難しさを痛感しました。今後はエコについての引き出しを増やし、コミュニケーション力を高めて、楽しく活動ができるように頑張りたいと思います。

黒栁 まゆみ さん
エコメイト
環境ボランティア 17 期生

1-3 子どもから大人まで環境人づくり

2016年度
成果目標

【えこそら屋上】
参加者が、自然や食の循環、自分たちの暮らしとのつながりに気づき、普段の生活の中で環境について意識するようになる。
ボランティアが調べたことや学んだことなどを、参加者や来館者に展示看板や案内活動を通して伝えている。

【連続講座ていねいに暮らしを創る】
参加者が普段の暮らしを見つめ直し、楽しみながらできる環境に配慮したライフスタイルを実践するきっかけや、仲間を見つけている。

【環境教育リーダースタートアップ講座】
より受講者のニーズに合った講座を行うことで、受講者が講座で得たノウハウを活かし、それぞれの現場で環境教育の実践が行われている。

【自然エネルギー学校・京都】
電力自由化を踏まえながら、最新の自然エネルギーの動向を知り、自然エネルギーの普及に関わる人材やネットワークが育っている。

【インターンシップ受け入れ】
新たなインターンシップ受け入れ制度を導入することにより、参加する学生にとってよりよい活動の場にするためのマネジメントを行っている。
様々なステークホルダーと連携し、インターンシップ受け入れ事業を運営することにより、一人でも多くの「持続可能な社会実現のために」動いていく大学生を輩出している。

【職場体験受け入れ】
生徒の関心や特性に合わせた職場体験の受け入れを行っている。

えこそら屋上

環境ボランティアとともに、屋上ビオトープの管理と活用を行い、暮らしと自然や生きものとのつながりを伝えました。ビオトープ活動では、草刈りなどの管理作業と生きもの調査、案内板の更新、ビオトープクイズの設置を行いました。えこそらキッズ活動では、小学１～４年生とその家族の方を対象に年 14 回にわたり、お米や野菜の栽培、生きもの観察、エコクッキングなどを実施し、最後に活動をまとめた絵巻を作りました。

絵巻を発表している様子

連続講座ていねいに暮らしを創る

衣・食・住といった暮らしに直結するテーマやパーマカルチャーなどを取り上げ、消費するのではなく、自分たちで「創る」ということを通して、環境負荷を減らしながら楽しく心豊かに暮らす方法について体験的に学ぶ講座を５回シリーズで開催しました。

また、参加者が講座を通して学びを深めるとともに交流し、活動の輪を広げるために、講座終了後にはメーリングリストの立ち上げやスピンオフ講座を開催しました。

講座の様子

環境教育リーダースタートアップ講座

環境教育実践の担い手を育てるために全６回の連続講座を実施し、16 名の修了生を輩出しました。2016 年度は「子どもと関わる大人」を対象に、子ども向け環境教育のノウハウについて学べるよう、自然体験やまち歩き、環境学習プログラムづくりなどをテーマとして、講義だけでなく体験やワークショップなどをまじえた実践的な講座内容としました。修了生からは、「身近な環境の中に環境教育の素材を見つける視点を新たに得られた」などの感想がありました。

講座の様子

自然エネルギー学校・京都 2016

「はじまる自然エネルギー 100%時代」と題して、自然エネルギーに関する国内外の現状や事例について学べる講座を全４回にわたり開催しました。電力小売り自由化と日本のエネルギー政策、太陽熱や木質バイオマスなどの熱利用に関する講義やワークショップを実施しました。また最終回では、自然エネルギーを活用した地域再生・活性化の事例として、岡山県西粟倉村に視察に行き、小水力発電や地域での熱利用の可能性について考えました。

視察の様子

インターンシップ受け入れ

損保ジャパンＣＳＯラーニング制度を活用し、長期の大学生インターン１名を受け入れました。祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアリーダー参加、センターでの来館者対応やイベントサポート、「ちきゅまるひろば」の実施など、様々な業務を行いました。また、同世代の若者に環境意識を高めてもらうために、職員とともにイベントを企画・実施しました。企業や学生団体より事例発表を行い、参加している若者が持続可能な社会に向けた課題について話し合い、「エコな未来提案」として発表しました。

同世代の大学生向け
イベントの様子

職場体験受け入れ

京都市教育委員会による「生き方探求・チャレンジ体験」の受け入れを行いました。年間で４校 13 名の生徒を受け入れました。教員との事前打ち合わせや、生徒の事前訪問時に希望する体験内容を聞き、活動に反映させるなど充実した体験となるように工夫しました。また、中学生が職員や環境ボランティアにインタビューし、仕事やボランティア活動への思いを聞くなど、様々な人と関われるように意識し、受け入れを行いました。

職員にインタビューする様子

COLUMN
コラム

生きものとのつながりや自然の循環を実感する「えこそらキッズ」

エコセン えこそらキッズは、小学１～４年生とその家族の方を対象とした、年間 14 回の継続プログラムです。年間を通して、センターの屋上で野菜やお米の栽培、生きもの観察等を行い、育てた作物は、その場でみんなで食べたり、調理して食べるといった活動をしました。栽培時には、できるだけ種から育て、生長の様子を観察し、育った野菜をすべて収穫するのではなく、一部は花を咲かせ、種をつけるまでお世話をしました。その種は次の種まきで使っています。これにより、普段見ることのできない野菜の姿を観察できるだけでなく、命の循環を感じることができます。花にはチョウやハナムグリなどが訪れ、他の生きものの命も育んでいます。

活動の最後には、毎回の活動を一つにまとめる絵巻を作り、発表会をしました。継続して体験的に学ぶことで、参加者が、買い物の時に旬を意識して選ぶようになったり、プランターで野菜を育てたり、緑のカーテンに挑戦するなど、暮らしの中での実践に繋げることができました。

パートナーの声

若者の目線で提案『若者向け企画』インターンシップ生の活動

PARTNER

中村 麻友実 さん
神戸松蔭女子学院大学

2016 年の 6 月から 2017 年の 1 月にかけて約 8 ヶ月間、センターで、大学生の長期インターンシップ受入がありました。職員との朝礼、開館作業を経て、来館者の方々への受付対応や子どもに人気のプログラム「エコ虫探し」などセンターで行っている業務ひとつひとつを学ぶことができました。

中でも今回のインターン活動で一番のメインとなったのが、若者に持続可能な社会に向けての関心を持ってもらう「若者向け企画」でした。センターが大学生の環境活動拠点として大学生との連携強化とインターン生の企画力を高める機会として今回の企画が始まり、「持続可能な社会になるために、地域社会はどうあるべきか」、未来を見据える若者への意識啓発に繋がることを目的としました。

「持続可能な社会を若者と考えよう」を全体的なテーマとし、課題や疑問を話し合い、企業・団体の取り組みの紹介を通してワークショップを行い企画提案が行われました。ワークショップは自分の興味がある提案のグループへ行き、各グループで模造紙と付箋を使い意見をまとめ、より具体的な内容にして発表しました。発表した提案をもとに、地域と企業・NPO で取り組める事を検討しました。

話し合いでは飲み物を飲みながらカフェの様に堅苦しくない雰囲気で行われ、参加した学生や団体、企業の方同士が近い距離で意見を交換することができ、今回の企画を通して新たな交流や繋がりが生まれました。この繋がりをきっかけに京都市内の大学生の環境活動が充実する事を期待しています。

京 エコロジーセンター PROJECT 2

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携

（支援・連携する場）

2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2016年度 成果目標

地域での環境保全活動を活発にするために、センターの環境ボランティアが、地域で環境啓発を進めていけるような支援を行っている。
地域での環境保全活動に関係する諸団体（地域コミュニティ、NPO、事業者、教育機関他）と連携して、事業が実施できている。

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

地域社会において、環境保全活動が活発に行われるようになることを目的に、様々な主体（地縁組織、教育機関、市民団体、事業者など）との連携・支援に取り組みました。特に京都市内の各地域で催されるイベントや行事において、参加した子どもたちがエネルギーについて学ぶことができる環境啓発ブースの出展や、地域の各種団体が実施する集会などで省エネやごみ減量に関する学習会を実施するなど、様々な主体と連携した地域での環境活動を 35 回実施しました。

ブース出展の様子

パートナーの声

エコライフをエコセンから地元の子どもたちへ

PARTNER

エコセンでは地域でブース出展を行う「エコゆうゆう」の活動に参加し、地域のお祭り等でエコライフの推進をしています。その出展内容は、人力や自然の力を使った発電体験が主で、子どもたちが自分で動かして考える体験ができるようなものです。これら装置類の製作・修理・調整も、主にボランティアが行います。また、それ以外にも高月館長のマンガや紙芝居等を用いて、環境のメッセージを伝える活動も行います。そうした経験を通じて、子どもにとって、エコライフはこれからの社会の身だしなみとなりつつあり、この体験は有用だと実感しました。

そこで、地元でも、エコセンの備品等を利用して、コミセンや校区社協などで行われる行事において、地元の子どもに同様のプログラムを実施しています。また、それ以外にも、家庭に配布される広報紙を編集する作業も担当しており、その誌面でエコライフに関して発信する活動も行っています。

森安 健至 さん
京エコサポーター
環境ボランティア２期生

京 エコロジーセンター PROJECT 3

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流

（発信する場）

3-1 情報発信・広報対策

2016年度 成果目標

【図書】
図書コーナーの運用を通じて、センターの情報や環境に関する情報が発信されている。
他事業と連携して、図書コーナーの情報を発信できている。
図書コーナーの運用の一部を、センターの環境ボランティアとの共働で実施できている。

【通い帳】
ボランティアのシフト活動の一つとして、通い帳を通じた展示案内等が定着することで、展示やスタッフとの関わりを通じたセンターの魅力を来館者に発信できている。また、通い帳を通じた継続的な来館が増えている。

【広報・プロモーション】
センターの事業でその成果や魅力を発信できていない情報を整理し、様々な媒体を通じて発信されている。

【季刊誌「えこせん」】
季刊誌を通して、読者が家庭でエコを意識・実践したり、センターに来館したりするきっかけを作っている。
また、より多くのターゲット層の手に届けるために効果的な配架先を開拓することで、センターについて、より広く知ってもらうことができている。

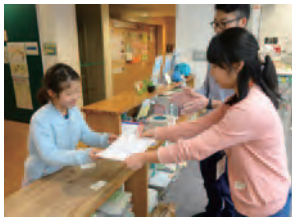
図　書

図書コーナーでは、約 7,000 点の資料（図書・雑誌・視聴覚資料など）を通じて、環境問題や環境学習に関する情報を発信しています。年間の利用状況は、資料の貸出がのべ 631 名 2,321 冊、新規図書利用者カード登録者が 170 名でした。また、図書コーナーの認知度を高めるため、本の交換会「ほん・で・チェンジ～交換しよう、そうしよう～」や、除籍資料を市民に譲渡するイベント「ほん・で・リング」を開催し、図書コーナーの認知度向上を図りました。

「ほん・で・チェンジ」の様子

通い帳

来館者がスタッフとの関わりを通じて、環境への学びを深めることを目的とした「エコセン通い帳」を運用しています。チャレンジカードに書かれた指令をクリアするとスタンプが集まり、一定数集まるとノベルティや、10 個集めた来館者には「エコの達人認定証」を贈りました。通い帳は楽しく環境について学ぶことが出来ることから、継続的な来館を促し、年間でのべ 2,397 名の参加がありました。また、「エコの達人認定証」を 51 枚発行し、スタンプを 60 個集めた殿堂入りは 3 名誕生しました。


「エコの達人認定証」受賞の様子

広報・プロモーション

イベント案内チラシを A4 サイズのカラー版にリニューアルし、隔月発行しました。イベントの多い夏休みには夏休み特大号を作成し、小学校などに配布しました。また、市政記者クラブなどへのプレスリリース配信を 14 回行い、取材や記事掲載は 17 件ありました。他にもブログと Facebook を連動させた発信や、利用者の多い外部のお出かけ情報サイトにイベント情報を掲載するなどしました。お出かけ情報サイトではバナー広告を掲出し、センターの認知度拡大を図りました。

イベント案内チラシ

- イベント案内チラシ：毎月約 4,200 部発行。
- 夏休みイベントチラシ「京エコロジーセンターイベント案内夏休み特大号」：7,000 部発行。市内小学校等 20 校に配布。
- 市政広報ポスター：10 月、2 月に各 10,800 部発行。

季刊誌『えこせん』

季刊誌『えこせん』を隔月で年６回（毎号 5,000 部）発行し、センター館内や市内各所に配架しました。季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」や読者のメインターゲットである親子層を意識し、旬の話題をテーマに取り上げたり、家庭で取り組めるエコライフを紹介したりするなど、読者がより読みたくなる誌面を目指して制作しました。また、センターで開催するイベントと誌面の特集を連動させ、読者にセンターへの来館やイベント参加を促すようにしました。

発行月	特集１（人物取材）	特集２季節に合わせたエコライフの提案
No.43（6 月号）	季節とつくり手がみえるおばんざい食堂 「ひとつのおさら」 オーナー・西村和代さん	毎日のことだから　ごみの分別と減量を考える
No.44（8 月号）	ひのでやエコライフ研究所 所長・鈴木靖文さん	知って実践！我が家の省エネルギー
No.45（10 月号）	いのちの里　京都村 事務局長・林利栄子さん	10 月 16 日は世界食料デー　毎日の食事と食品ロス
No.46（12 月号）	シサム工房 代表・水野泰平さん	寒くなってきました　冬こそ、実行！家族で省エネ
No.47（2 月号）	津乃吉 代表・吉田和親さん	エコ！省エネ！時短！ 干し野菜を活用しよう
No.48（4 月号）	洋服のお直し＋洋裁教室 渡邉知栄 店主・渡邉知栄さん	登校＆登園グッズに ハギレやボタンで簡単エコリメイク

3-2 イベント（プログラム）の企画・実施

2016年度 成果目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。

それにより、多くのイベント参加者が、イベントでの「気づき」を家庭で実践したり、周りの人に伝えようとするきっかけを創出している。

イベント

親子向けから、大人対象のものまで、環境にあまり関心の高くない方でも楽しみながら暮らしの中でできるエコについて学んでいただけるイベントを企画・実施しました。電力小売り自由化を受け、エネルギーをテーマとした大型イベントや、３Ｒをテーマとした人形劇、エコクッキング、京都の木を使った工作などを開催しました。また、京都市ごみ減量推進会議とともにフードロスをテーマとしたイベントも開催しました。

実施件数：29 件（うち、大型イベント開催は 3 件）、参加者数：6,736 名。

エネルギーをテーマにしたブースの様子

COLUMN コラム

全館イベント「フードロスと未来の食環境　食べものどうなるの？」

京都市ごみ減量推進会議と共に、「フードロス」（まだ食べられるのに捨てられている食品のこと）をテーマにしたイベントを 10 月 30 日（日）に開催しました。センター全館に食に関する様々なブースやワークショップ、ステージでは講演やショーなどを随時開催し、にぎやかな 1 日となりました。

「まち美化戦隊ゴミコロレンジャー」は笑いの中にごみについて考えられる内容となっており、子どもから大人までショーを楽しんでいました。「プロが作る！丸ごと食べキリレシピの紹介＆試食」では、皮まで活かしたレシピで作られた料理を紹介し、たくさんの人が美味しく食べながら、食材を使い切る大切さについて感じていました。他にもコンポストやフードドライブに関するブースなど、様々な視点からフードロスについて考えることができるイベントを開催しました。

ごみの中でも食品ごみは多くを占め、日本では 1 年間に約 632 万トンもの食べられる食品が捨てられています。ごみ減量の為には、食べられる食品を使い切ることが大切です。イベントを開催することにより、多くの人に「フードロス」の問題について知ってもらうきっかけとなりました。

イベント一覧

開催日	事業名	講師・協力団体等	参加人数
4 月 17 日	アースデイ＆京エコロジーセンター開館 14 周年記念イベント「家族でえらぼう！おうちのエネルギー」	出展協力：12 団体（14 ブース）	1,200
5 月 8 日	「布・ヒモから遊べる電車作り！」	ドットアートコスモ　右脳の散歩道ギャラリー	71
6 月 26 日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」①	有限会社ひのでやエコライフ研究所	16
7 月 3 日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」②	有限会社ひのでやエコライフ研究所	14
7 月 9 日	「夏を乗りきる！体にやさしい、旬の重ね煮クッキング」	梅﨑和子氏（養生料理研究家）	19
7 月 18 日	「雲ってなぁ〜に？雲を知って、お天気博士になろう」	一般財団法人日本気象予報士協会関西支部楽しいお天気講座	46
7 月 23 日	「ネッククーラーで夏を乗りきろう！」	ストア・ニードル・ワーク店主　渡邉知栄氏	44
7 月 24 日	「人形劇　３Ｒエコシアター　『森のたんけんたい』」	（有）人形劇団クラルテ	171
7 月 24 日	「私の部屋が発電所！？ソーラー発電組み立てワークショップ」③	有限会社ひのでやエコライフ研究所	13
7 月 27 日	「京都の木で小さな家のペン立てづくり」	グリーンウッドワークかんさい	47
7 月 29 日	「LED ランプで行灯を作ろう！」	パナソニック株式会社エコソリューションズ社	69
7 月 31 日	「親子で作ろう！簡単・便利なカンブツ料理」	山上公実氏（家庭料理研究家）	24
8 月 1 日	「しっくいアートパネルを作ろう！」	ビー・ブロックス一級建築士事務所　岡本頼子氏	24
8 月 3 日	「紙すき体験〜紙パックから絵はがきづくり〜」	共催　宝酒造株式会社	51
8 月 5 日	「LED ランプで行灯を作ろう！」	パナソニックエコソリューションズ社	67
8 月 6 日	「子どもクッキング教室〜自分で作るカンタンごはん〜」	鎌田早紀子氏（管理栄養士）	24
8 月 7 日	「京都の木で本立てを作ろう！」	京都木材青年経営者協議会	68
8 月 9 日	「葉っぱや草花でしおりを作ろう！」	名神深草森の会	131
8 月 20 日	「わくわくソーラーカー工作教室」	主催　経済産業省資源エネルギー庁 GREEN POWER プロジェクト／共催　京エコロジーセンター／企画・運営　一般財団法人新エネルギー財団、株式会社アイエヌジー	105
9 月 17 日	「おうちにあるもん de 簡単パーティークッキング！」	あるもん de プラス	16
10 月 21 日	「冬に備える！体にやさしい、旬の重ね煮クッキング」	梅﨑和子氏（養生料理研究家）	15
10 月 29 日	「『都市を耕す - エディブル・シティ』上映会＆トーク	西村和代氏（一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン）	26
10 月 30 日	世界食料デー＆３R 推進月間記念イベント「食べものどうなるの？〜フードロスと未来の食環境〜」	主催　京エコロジーセンター・京都市ごみ減量推進会議　出展協力：17 団体（23 ブース）	617
11 月 26 日	リサイクルシルバーで葉っぱのペンダントづくり	小島朗子氏（アートクレイ倶楽部）／協力　相田化学工業株式会社	9
2 月 4 日	おうちで挑戦！毎日食べたい味噌づくり	鎌田早紀子氏（管理栄養士）	55
2 月 15 日	講演会　赤ちゃんから始める木のある暮らし〜木育の効果と可能性〜	多田　千尋氏（東京おもちゃ美術館　館長）	46
2 月 18 日	木のおもちゃで遊ぼう！木育キャラバン in 京都	NPO 法人 日本グッド・トイ委員会	3,657
2 月 19 日			
2 月 25 日	農家さんに学ぼう！おいしいお米のクッキング	八代恵里氏 他（農業生産法人　有限会社　かみなか農楽舎）	20
3 月 8 日	赤ちゃんと一緒においしい！重ね煮離乳食講座（初期・中期編）	梅﨑和子氏（養生料理研究家）	15
3 月 15 日	赤ちゃんと一緒においしい！重ね煮離乳食講座（後期・完了期編）	梅﨑和子氏（養生料理研究家）	23
3 月 18 日	楽しく学べる 伏見の農業学校	伏見わっしょい新党	33

資料集

入館者数編

入館者数

年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847	100,701	101,869
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595	878,972	973,518	1,065,365	1,166,066	1,267,935

団体見学（上段：総数、下段：団体数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104	6,091	5,859	5,018
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175	194	198	175	183	164
内海外	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701	444	696	740	869	602
		5	10	16	12	26	26	37	40	27	23	25	28	32	27

エコ学習（上段：総数、下段：学校数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949	4,354	3,944	3,961
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117	111	151	147	132	132

会議室貸出件数（上段：利用者数、下段：貸出部屋数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
合計	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430	4,359	4,894	5,114
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481	452	430	391	440	457

月別入館者数

	入館者数 (A)														館外利用者 (B)					利用者総数 (A)＋(B)	利用者総数年度比較	
		個人や家族での入館者					自治体などの団体見学				小学校単位のエコ学習		会議室等			館外出展		主催・共催事業			2015年度	
		啓発イベント		主催・共催事業			うち、海外からの団体															比較
		人数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	校数	人数	部屋数		人数	件数	人数	件数			
4月	7,502	6,690	1,237	19	0	0	184	5	33	1	352	11	276	30	0	0	0	0	0	7,502	8,215	91.3%
5月	7,346	6,086	313	17	52	3	334	13	56	3	451	11	475	38	237	218	1	19	1	7,583	7,615	99.6%
6月	7,475	6,404	430	8	69	6	583	14	40	2	0	0	488	43	335	333	1	2	2	7,810	7,575	103.1%
7月	10,397	8,596	509	24	135	9	355	13	44	1	1,056	22	390	37	294	278	1	16	1	10,691	9,942	107.5%
8月	10,889	9,986	1,075	34	49	6	516	16	31	2	0	0	387	44	110	110	1	0	0	10,999	12,338	89.1%
9月	7,450	6,743	411	9	49	7	290	16	25	2	0	0	417	48	445	445	2	0	0	7,895	8,926	88.4%
10月	9,869	8,522	694	27	91	10	890	23	48	4	131	9	326	27	818	778	4	40	1	10,687	8,474	126.1%
11月	10,324	8,868	34	5	315	18	991	22	26	2	0	0	465	40	490	482	2	8	1	10,814	12,627	85.6%
12月	5,938	5,009	583	14	91	11	198	11	51	3	316	22	415	35	173	134	2	39	1	6,111	5,699	107.2%
1月	5,873	4,730	26	5	104	6	149	10	52	2	538	16	456	30	0	0	0	0	0	5,873	6,475	90.7%
2月	11,567	9,822	4,064	13	104	13	287	12	76	4	1,025	38	433	34	98	98	1	0	0	11,665	12,162	95.9%
3月	7,239	6,320	317	13	51	6	241	9	120	1	92	3	586	51	0	0	0	0	0	7,239	6,518	111.1%
計	101,869	87,776	9,693	188	1,110	95	5,018	164	602	27	3,961	132	5,114	457	3,000	2,876	15	124	7	104,869	106,566	98.4%

環境ボランティア活動編

環境ボランティア人数

年度	2002年度 1〜2期	2003年度 1〜3期	2004年度 1〜4期	2005年度 3〜5期	2006年度 4〜6期	2007年度 5〜7期	2008年度 6〜8期	2009年度 7〜9期	2010年度 8〜10期	2011年度 9〜11期	2012年度 10〜12期	2013年度 11〜13期	2014年度 12〜14期	2015年度 13〜15期	2016年度 14〜16期
エコメイト登録者数	85名	104名	108名	85名	81名	83名	82名	72名	61名	55名	51名	47名	42名	51名	52名
京エコサポーター登録者数				31名	51名	74名	89名	89名	87名	81名	94名	108名	118名	122名	133名

エコメイト修了生は2016年度末に14期生10名が修了し、合計286名になりました。

エネルギー資源使用量編

水道使用量

	2月11日～4月12日	4月13日～6月10日	6月11日～8月10日	8月11日～10月13日	10月14日～12月12日	12月11日～2月10日
水道使用量（㎥）	62	45	146	159	124	157
使用量累計（㎥）	62	107	253	412	536	693

	1月21日～3月22日	3月23日～5月23日	5月24日～7月20日	7月21日～9月20日	9月21日～11月20日	11月21日～1月23日
雨水使用量（㎥）	267	168	191	357	163	141
使用量累計（㎥）	267	435	626	983	1,146	1,287

電力量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量（kWh）	12,259	9,171	11,835	27,264	34,540	35,002	18,671	9,417	24,567	29,856	43,999	30,830	287,411
・太陽光発電量−売電量（kWh）	2,047	2,510	2,003	2,220	2,426	1,465	1,403	1,061	931	983	1,091	1,818	19,958
・関西電力（kWh）	10,212	6,661	9,832	25,044	32,114	33,537	17,268	8,356	23,636	28,873	42,908	29,012	267,453
太陽光発電量の割合（%）	16.7%	27.4%	16.9%	8.1%	7.0%	4.2%	7.5%	11.3%	3.8%	3.3%	2.5%	5.9%	7.0%

※太陽光発電量内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
太陽光発電量（kWh）	2,080	2,566	2,003	2,220	2,426	1,466	1,412	1,067	931	991	1,091	1,818	20,071
売　電　量（kWh）	33	56	0	0	0	1	9	6	0	8	0	0	113
使　用　量（kWh）	2,047	2,510	2,003	2,220	2,426	1,465	1,403	1,061	931	983	1,091	1,818	19,958

貸出スペースの活用

センターでは、会議室等の貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室 2、視聴覚室（シアター）、リサイクル工房（実習室Ａ）、エコ厨房（実習室Ｂ）が各 1 となっています。貸出スペースの認知度を上げるためにパンフレット等で効果的な広報等に取り組み、利用者数、利用率の向上を図りました。

利用回数	利用者数
457 回	5,114 名

エコセンまとめ　さらなる高みを目指して

（公財）京都市環境保全活動推進協会
エコセン事業課長　遠藤 修作

京エコロジーセンターは、1997 年に開催された地球温暖化防止京都会議（COP3）を記念して、環境学習・環境保全活動の拠点施設として 2002 年に誕生しました。開館以来、持続可能な地域社会づくりを目指して、人材育成や市民参画による環境保全活動の推進を軸とした幅広い事業を展開しています。2016 年度のトピックをいくつか挙げると、新しい環境ボランティア制度のもと、エコメイト 1 年目から 3 年目までの年次目標を設定し、それに合ったボランティアマネジメントや各種研修を体系立てて実施しました。また、新規養成講座においては、各事業の担当職員が講師となって講座を運営しました。環境ボランティアの育ちは、センターの魅力や来館者の満足度を高めることに奏功しています。企画展やイベントでは、フードロスや SDGs、電力自由化、木育など、社会のトレンドや参加者のニーズを的確にとらえたテーマを切り口に実施しました。なかでも 2 月に開催した木育キャラバンでは、2 日間で約 3,600 名もの方が参加されました。さらに木育を継続的に推進するために、木のおもちゃで自由に遊べるコーナー「木のおもちゃひろば」を 3 月に新しく設置しました。これまで未就学児を対象にした事業は少なかったのですが、このコーナーを機に、新たな層がセンターに来られるようになりました。これらの事業を含め、すべての事業の結果として、年間来館者数においては 2 年連続 10 万人を超え、さらに開館以来最高となる 101,869 名を数えました。

開館から 15 年を迎え、センターの事業は充実化し、様々な主体から連携・協力のお声掛けをいただく機会が増えるなど、センターに期待されるものが大きくなっていると感じています。京都議定書に代わる地球温暖化対策の枠組みとして、2016 年 11 月に発効したパリ協定では、今世紀後半には温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることが謳われています。そのためには、これまでの温暖化対策だけでは目標達成が難しいのが実状です。今後はこれまで以上に、センターが核となって、様々な主体と手を携えることで、これまでより 1 段も 2 段も高い目標に向かって、実効性のある環境保全活動を展開していく必要があると考えています。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

地域環境活動支援事業

2016年度 成果目標

京エコサポーターをはじめとする環境人材による学習会等の実施やエコ学区サポートセンターの活動支援を契機として、地域コミュニティでの環境配慮活動（以下エコ活動）が 2015 年度より、さらに進んでいる。

「エコ学区」に係る学習会等支援業務

京都市との協働により、元学区を単位とする地域コミュニティにおけるエコ活動を促進することで、市民のライフスタイルの転換と、増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで実現することを目指しています。地域活動にエコの視点を加え、各学区におけるエコ活動が円滑に進むよう、地球温暖化対策やエコ活動に役立つ情報提供などの支援を行いました。

エコ学区に係る相談窓口業務

京エコロジーセンターに「エコ学区サポートセンター」を開設し（平日 10 時～ 18 時）、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した 222 学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会の実施などを通じて、地域ぐるみのエコ活動を促進しました。

1 年間で計 700 回を超える学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを行うなど、ニーズに合わせ迅速に対応しました。

京エコライフプログラム（３学区実施）	学区が小学校と連携して行う、地域性をいかしたエコ活動を通じて学区のエコ活動が小学生等の家庭や PTA に広がるように努めました。
エコ学区チャレンジプログラム（２学区実施）	「創エネ」「エコ×防災」をテーマとした連続プログラムを実施しました。
省エネナビ（電気消費量計測機器）を用いた学習プログラム（２学区実施）	集会所等に参加者が集まる形式の学習プログラム「くらしの匠～省エネ実感生活～」を地域ぐるみの活動につながるよう、学区の要望を取り入れ、柔軟に対応し実施しました。
学習会、啓発ブース出展（35 学区実施）	様々なテーマで実施し、3,313 名（大人 1,048 名・子ども 2,265 名）が参加しました。
地域の担い手セミナー（３回実施）	地域のエコ活動の担い手を育成することを目的に、京都商工会議所にて、「まちづくり環境びと実力アップ講座」を開催しました。（参加者数：大人のべ 86 名）
京都環境賞のエコ学区部門への対応	京都市とともに、各区役所・支所におけるエコ学区推進賞の内申を行いました。

市民協働発電制度地域コミュニティ版 支援コーディネーター派遣業務

京都市との協働により、地域のコミュニティ組織が主体となり、地域に太陽光発電や小水力発電など再生可能エネルギー利用設備を設置しようとする意欲的な取組を支援するため、地域住民の合意形成をはじめ、再生可能エネルギーを活用した発電事業に関する調査や事業化の検討等を行うため、コーディネーターを 4 地域に 15 回派遣しました。

COLUMN
コラム

さらなる深化を目指して
～エコ学区ステップアップ事業～

2011-12 年度にモデル事業として始まった「エコ学区」は、2015 年度、京都市内の全 222 学区に水平展開されました。地域では、自治会加入率の低下、空き家率の増加、安心安全、防災減災、少子高齢化、獣害など多くの課題を抱えており、「エコなんてやっていられない」という声も上がっています。そんな中、地域と当協会が関係を構築し、3 年間で 110 学区にて学習会を実施できたことは、大きな成果です。

2016 年度からは、より意欲的な学区を応援する「エコ学区ステップアップ事業」というスキームを展開しました。エコ学区と同様に、市内の全小学校で展開されている環境学習プログラム「こどもエコライフチャレンジ」事業と連携し、地域性を活かした活動モデルを創るプログラムや、上記の地域課題を「エコの切り口」で解決するプログラムなどを提案し、さらなる深化に挑戦しました。

パートナーの声

体験したことを地域へ広めていきたい

PARTNER

2015 年、音羽の杜をエコバスツアーで見学し、スケールの大きさに、びっくりしました。毎日のごみの灰が埋め立てられているのを見ると、この埋め立て地をできるだけ長持ちさせるよう、資源となるものはきちんと分別し、一人ひとりがごみをできるだけ減らす心がけをしなければと痛感しました。

2016 年は、エコクッキングの学習会を体験し、食材の使い切りや野菜くずの堆肥化を学びました。エコ学区サポートセンターの指導のもと、「くらしの匠」にも取組み、消費電力の見える化や省エネにつながる電化製品の選び方、使い方などを学び、節電ができました。

今では、CO_2 排出量を削減する「DO YOU KYOTO? クレジット」にも取り組み始め、家庭での省エネについて、毎日、関心を持って生活していきたく思っています。これらの事を体験しつつ、学区内の人々にも広めていきたいと思っています。

秦 三津子 さん
下京区植柳地域
女性会会長

国際事業

2016年度 成果目標

京都におけるパートナーシップによる気候変動対策・都市型環境教育推進をはじめとした様々なローカルモデルのうち、低炭素教育・まちづくりにかかるモデルが国内外に発信できるよう整理されている。

JICA課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用、計画・政策編）」

ブラジルとモザンビークから来日した廃棄物に関わる政府・地方行政関係者を中心とする研修員を受け入れ、約２ヶ月間に渡る研修を実施しました。廃棄物の適正処理のための政策や技術、関係組織間の連携、市民参画などに関する講義、実習、研修旅行等を通じ、研修員が自国の直面する廃棄物問題の解決に有効な政策的・技術的知識を習得し、自国での担当業務に学びを活かすことができるように研修を行いました。

研修の様子

JICA草の根技術協力事業「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」（マレーシア）

イスカンダル開発地域における持続可能な低炭素社会を目指した段階的な低炭素教育の実施や地域コミュニティ単位の活動に焦点を置き、小学校及びセカンダリースクール（日本における中学・高校に相当）での低炭素教育の実施の支援や、学校を中心とした地域コミュニティでの環境活動の支援、環境活動を推進する人材育成の支援を３ヶ年のプロジェクトで行っています。本年度は現地への専門家派遣を３回、現地関係者の訪日研修を１回実施しました。

マレーシア現地における
ミーティングの様子

JICA日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援（中国）

プロジェクトの支援・協力として、2016 年 7 月に北京、武漢への専門家派遣を実施し、専門家会議への出席や研修会における講義を行いました。2017 年 2 月には、本プロジェクトの一環の JICA 中国・国別研修「環境意識、家庭エコ診断」を受託し、中国の環境教育等の中核を担う研修員を対象に、日本国内での講義や研修旅行を通して、研修員の知識や技術の習得、日本の環境学習施設の運営に関する理解、関連組織とのネットワークづくり等の支援を行いました。

中国・武漢における講演の様子

パートナーの声

日本を代表する環境教育、市民参加支援機関とのパートナーシップ

PARTNER

難波 緑 さん（写真右端）
JICA 関西　業務第二課　主任調査役

独立行政法人国際協力機構（JICA ジャイカ）は全国に 15 の国内拠点を有し、私の勤める関西国際センター（JICA 関西）では近畿 2 府 4 県で開発途上国の行政官や技術者を対象とした国際技術研修コース、青年海外協力隊などの海外ボランティア、自治体や NGO 等の途上国での活動を支援する草の根技術協力等を市民の皆様、企業、大学、自治体等とのパートナーシップの下で実施しています。特に重視する分野の一つが環境分野で、2012 年度からこれまでに 84 か国から 920 名以上の開発途上国の研修員が関西の進んだ取り組みを学んで帰国し、自国の環境・衛生の改善に役立てています。

京都市環境保全活動推進協会と JICA 関西のパートナーシップは 2000 年代の中国、マレーシアに対する環境協力に始まり、現在は複数の国際研修や草の根技術協力を実施しています。

これらの活動を通じて感じることは、京都は環境問題への市民の意識が非常に高いということです。食用油の回収 / 再生が住民主導で行われていたり、エコまちステーションやエコ学区制度が市内全域で成り立っている。京エコロジーセンターでは案内役が市民ボランティアだと知って外国人研修員は一様に驚きます。彼らは京都で根付いている市民参加の実態に触れ「さすが KYOTO 議定書のホストシティだ」と大いに刺激を受けて帰国していきます。

京都市環境保全活動推進協会は京都の環境問題への取組のノウハウが蓄積されている組織であり、同協会とのパートナーシップは JICA 関西にとって大変貴重なものです。これからもいろいろ勉強させて頂きつつ、さらに JICA の国際協力活動を通じてともに世界に「KYOTO」を発信しつづけて行きたいと思います。

COLUMN
コラム

海外とつながる京都の環境教育・環境保全活動

当協会は、京都にとどまらず、世界のより多くの人や団体と一緒に環境教育・環境保全活動を考え、広げていく取組を行っています。これまでに、国内での研修事業を通じて、環境教育や環境保全活動における人材育成や市民参画推進のノウハウ等を、海外からの研修員に伝える場づくりを行ってきました。研修事業では、一方的に伝えるだけではなく、京都や日本の事例をもとに海外の実情を考え合わせ、参考となる知見やノウハウを自国で活かすことができるように研修員を支援してきました。（当協会国際事業の研修事業は、主に独立行政法人国際協力機構（JICA）より受託しており、過去 6 年間で 8 コースを実施し、14 ヶ国 56 名が参加しました）。

国外では、マレーシアにおいて、京都で開発された環境教育プログラムや、地域コミュニティを基盤にした環境保全活動推進の取組を参考にしたプロジェクトを展開し、低炭素社会実現のための人・コミュニティづくりを支援しています。2016 年度は、現地の小学校・セカンダリースクール（日本の中学・高校に相当）から選定したモデル校における低炭素教育実施の支援や、低炭素教育を進めるための人材育成の支援を行いました。また、地域コミュニティを基盤とする環境保全活動については、2016 年 12 月に現地コーディネーターを対象に実施した訪日研修を皮切りに、現地のコーディネーターやモデルとなる地域コミュニティの関係者らと、現地活動の本格化に向けた取組を行いました。（2016 年 2 月のプロジェクト開始より、これまでに 4 回の専門家派遣（延べ派遣人数 18 名）と 2 回の訪日研修（延べ受入人数 18 名）を行いました。）

中国においては、センターで培った環境教育施設の管理・運営のためのノウハウを活かし、北京の日中友好環境保全センターに所属する行政職員をはじめ、中国の環境教育を担う人々に対し、専門家派遣や研修を通じてニーズに応じた支援を行っています。2017 年 2 月には、中国で環境教育を担当する行政関係者及び NGO 関係者に対して、京都や日本の事例をもとにした、環境教育の推進のための仕組みづくりや自然学校の運営、家庭の省エネ診断をテーマにした訪日研修を実施しました。

これらの取組を通じて、海外に京都や日本の知見が、少しずつですが着実に広がってきています。

その他協会事業

協会ネットワーク・ハブ機能形成

京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になり、様々なパートナー同士の「ネットワーク」を形成し、環境ソーシャルキャピタルの醸成・向上を目指しています。

2016 年度は以下の事業について様々な形で関わりました。

日本環境教育学会での発表の様子

実施日	事業名	実施体制
6 月 24 日	第 12 回近畿の 環境団体情報交流会への 参加・発表	主催：NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター （エコネット近畿）・一般財団法人セブンーイレブン 記念財団 企画・運営：近畿の環境団体実行委員会 2016
5 月 29 日 6 月 11 日 7 月 9 日 7 月 10 日 7 月 14 日 7 月 15 日	祇園祭ごみゼロ大作戦 2016 への 参画・ボランティアリーダー 育成研修	主催：祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会 構成団体：美しい祇園祭をつくる会・NPO 法人きょうと NPO センター・京都環境事業協同組合・京都市・ NPO 法人京都地球温暖化防止府民会議・NPO 法人 KES 環境機構・五条露店商組合・NPO 法人 地域環境デザイン研究所 ecotone・京のアジェ ンダ 21 フォーラム
7 月 29 日	イオンチアーズクラブ 京滋奈良和歌山地区予選会への協力	主催：イオンリテール株式会社近畿・北陸カンパニー
8 月 6 日 8 月 7 日	日本環境教育学会第 27 回大会への 参加と口頭発表	主催：日本環境教育学会
9 月～ 12 月	大学生による京都 SDGs マップ作成 プロジェクトへの協力	主催：京のアジェンダ 21 フォーラム
9 月 25 日 10 月 8 日 10 月 9 日	演劇で学ぼう！環境 演劇ワークショップへの協力	主催：NPO 法人フリンジシアタープロジェクト 協力：有限会社ひのでやエコライフ研究所・ 劇団衛星・ソノノチ
10 月 16 日	YES, WE DO KYOTO! DAY への協力	主催：京都市・スターバックス コーヒー ジャパン株式会社 協力：グンゼスポーツ株式会社・宮井株式会社・スフェラ ―パワー株式会社・graf・華道家元池坊・京都大学 の伊勢武史准教授と学生の皆様
11 月 5 日 11 月 6 日 11 月 7 日	清里ミーティング 2016 への 参加・事例発表	主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
11 月 12 日 11 月 13 日	第 21 回「青少年のための科学の祭典 ～未来をつくるサイエンス＆エコ～」 実行委員会への参画	主催：「青少年のための科学の祭典」京都大会 実行委員会 共催：公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館・ 青少年と科学の会・公益社団法人京都工業会内
11 月 19 日 11 月 20 日 12 月 3 日 12 月 17 日	課題解決力 UP! ～できることをどんどん増やそう～ 京都会場「スマホからはじめよう！ WEB 活用術」への協力	主催：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 企画・運営：特定非営利活動法人 イー・ビーイング

協会プロモーション・ファンドレイジング

2016 年度より英語版の協会ホームページを開設し、より多くの方に協会の存在と事業を知ってもらえる環境を整えました。また、「ワン・ワールド・フェスティバル」をはじめとする合計 3 つの外部イベントにブース出展し、協会及びセンターの事業はもちろん、国際協力や国際理解教育などの取組の PR をしました。ファンドレイジングについては、他団体との共催事業として「環境市民活動のための助成金セミナー」を実施しました。

ワン・ワールド・フェスティバル
出展の様子

セミナー・研修、イベント等の企画・実施

中山間地域を拠点に活動している環境教育団体「NPO 法人都留環境フォーラム」を講師に招き、「馬耕キャラバンワークショップ」を実施しました。都市で活動する当協会と中山間地域で活動している団体同士が協働したことで、環境教育の課題である中山間地域と都市の交流を行うことができました。今まで関わりの少なかった分野で活躍している団体とパートナーシップを築くことで、新たな視点を協会として得ることができました。

馬耕キャラバンワークショップ
の様子

COLUMN
コラム

祇園祭ごみゼロ大作戦 2016 への参画

多くの夜店・屋台が立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れる祇園祭の宵山行事。毎年ごみの量は増え、環境負荷が大きくかかっていました。2014 年度、夜店や屋台の協力のもと、世界初の試みとして、約 21 万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動が始まり、全国のモデルとなっています。

2016年度、当協会は大学生を中心としたボランティアリーダー研修などの役割を担い、来場者（約 55 万人）に対し、リーダー（のべ 126 名）と、ボランティアスタッフ（のべ 2,300 名）と共にエコステーション（50 ヶ所）の設置、ごみの分別作業等を行い、過去に 60 トンだった祭りの可燃ごみを 47 トンにまで減量させることが出来ました。

出前講座・講師派遣

出前講座・講師派遣事業では、他団体が主催するセミナーなどへ職員を派遣し、環境学習施設運営やボランティアコーディネーションなどこれまでセンターの管理運営業務で培ったノウハウをもとに、依頼元の要望にあわせて講演や事例発表をおこないました。また、京都教育大学の授業「環境教育の実践」の企画運営、生物多様性をテーマにした小学校でのワークショップ企画運営、その他国際事業に関連した講師派遣などを 10 件実施しました。

大津市生涯学習センターでの講演の様子

実施日	事業名	主催
4 月 13 日～ 7 月 20 日	京都教育大学　「環境教育の実践 – 環境ファシリテーター入門 -」企画運営	国立大学法人京都教育大学
6 月 3 日	JICA 集団研修「省エネルギー政策立案」に かかる研修への講師派遣	一般財団法人省エネルギーセンター
6 月 11 日	上鳥羽北部いきいき市民活動センター 「グリーンカーテン講習会」への講師派遣	上鳥羽北部いきいき 市民活動センター
6 月 15 日	大津市生涯学習センター 「施設ボランティア入門講座」への講師派遣	大津市生涯学習センター
6 月 29 日	立命館大学産業社会学部 出前講座「子どもと地球環境」	立命館大学産業社会学部
8 月 30 日	自治体と JICA の連携強化セミナー ～海外との絆を通じた地方創生に向けて～ での事例発表およびパネラー参加	独立行政法人国際協力機構 関西国際センター
10 月 19 日 10 月 27 日 11 月 2 日 11 月 15 日	「洛西地域における生物多様性の 取組に係るワークショップ」企画運営	京都市西京区役所
11 月 19 日	課題解決力 UP! ～できることをどんどん増やそう～ 「スマホからはじめよう！ WEB 活用術」 への講師派遣	特定非営利活動法人 イー・ビーイング
2 月 11 日	JICA 草の根技術協力事業 「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」 にかかる訪日研修への講師派遣	公益財団法人淡海環境保全財団
2 月 13 日	JICA 課題別研修「総合的な廃棄物管理（全般）（E）」 にかかる研修への講師派遣	特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

COLUMN
コラム

「生物多様性のまち・洛西　生物多様性保全に向けた取組」

近年、生物多様性の保全が喫緊の課題となっています。京都においても地球温暖化にともなう環境の変化や森林・里山の荒廃、外来種による生態系のかく乱、伝統文化を育んできた固有生物の減少など、生物多様性を取り巻く課題は様々あります。京都市では生物多様性プランを策定し、生物多様性保全に向けた取組をおこなっており、その一環として協会では生物多様性について学ぶワークショップを西京区・洛西ニュータウンにある 2 つの小学校で行いました。

はじめに京都の自然や生物多様性、それらと暮らし・文化とのつながりについて学びました。続いて、一方の小学校は近隣にある小畑川、もう一方の小学校は大蛇が池公園をフィールドに自然観察や生きもの採集を行いました。小畑川では自然植生が残る上流と三面コンクリート張りの下流の 2 地点で生きものを採集し、採集した生きものの種類と数から、生息環境との関係について体験的に学びました。一方、大蛇が池公園では、ため池の成り立ちや竹林の拡大、外来種の増加など人間の手が入ることや、反対に手が入らなくなることによって変化してきた自然について学びました。最後に、生きもの同士の関係や生息環境との関係を表した「生きものマップ」を作成し、生物多様性を高めるために自分たちにできることを考えました。

協会として、これまで取り組んできた低炭素社会や循環型社会を切り口にした事業に加え、自然共生社会を切り口にした事業を実施することができ、持続可能な社会づくりに向けた事業をさらに展開することができました。

電気自動車の普及・啓発のための充電設備管理業務

CO_2 の削減と低炭素社会の実現に向けて電気自動車の普及促進を図るため、充電設備の利用で来館した市民に対し、操作方法の説明を行いました。

KES（環境マネジメントシステム）の取り組み

2003 年 2 月 1 日から KES（環境マネジメントシステム）に京エコロジーセンター、京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ 21 フォーラムで取り組んでいます。

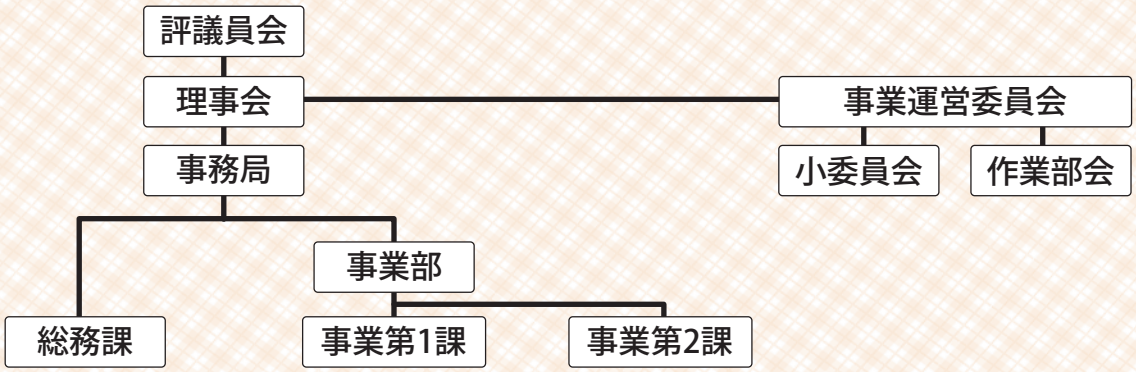
基本理念「京エコロジーセンターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。」の下、2016 年度は以下の項目に取り組みました。

取り組み項目　（1）エネルギーの削減　（2）紙の使用量の削減　（3）環境啓発
（4）グリーン購入の推進　（5）生物多様性を高める活動

KES
KES・環境マネジメントシステム・スタンダード
ステップ２登録

京都市環境保全活動推進協会
事業運営体制

●京都市環境保全活動推進協会　組織図（2017 年 3 月 31 日現在）



●京都市環境保全活動推進協会　役員等の状況（2017 年 3 月 31 日現在）

役員等の数

- 理 事 長　1 人
- 専務理事　1 人
- 理　　事　7 人
- 監　　事　2 人
- 評 議 員　12 人

評議員会

2 回開催（6 月、8 月）

理事会

5 回開催（5 月、6 月、8 月、11 月、3 月）

●パートナーシップで運営される各種委員会の開催

■事業運営委員会

事業運営に係る事業方針・計画、長期的な事業並びに利用団体及び事業者等とセンターが連携する事業の企画・立案・評価を行うことを目的に、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事業運営委員会を設置しています。

前年度事業の総括、事業の中間進捗状況の確認、次年度計画の策定を行っています。

■作業部会

必要に応じて個別案件ごとに「作業部会」を立ち上げます。2016 年度は「人づくり作業部会」「地域連携作業部会」を開催しました。

役員名簿（敬称略・順不同）（2017 年 3 月 31 日現在）

役職	氏名	所属・役職
理 事 長	高月　紘	京都大学名誉教授
専務理事	浅野　和子	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理　　事	枚本　育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦　健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	橋本　直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田　眞理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
〃	久山　喜久雄	フィールドソサイエティー代表
〃	水山　光春	京都教育大学教授
〃	松浦　卓也	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監　　事	野村　克章	税理士
〃	下間　健之	京都市環境政策局環境企画部長
評 議 員	浅利　美鈴	京都大学地球環境学堂准教授
〃	市川　智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	土山　希美枝	龍谷大学政策学部准教授
〃	中田　富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
〃	永橋　爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	長屋　博久	有限会社村田堂取締役
〃	原　　強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長
〃	山元　新司	株式会社京都銀行公務・地域連携部地域活性化室長
〃	粂　善子	有限会社思風都代表取締役会長
〃	周　瑋生	立命館大学政策科学部教授
〃	田中　克	京都大学名誉教授
〃	森元　正純	京都市環境政策局地球温暖化対策室長

事業運営委員名簿

（敬称略・50 音順）（2017 年 3 月 31 日現在）

氏名	所属
荒川　佳夫	京エコロジーセンター環境ボランティア（京エコサポーター）
伊東　真吾	一般社団法人 市民エネルギー京都
井上　和彦	京のアジェンダ 21 フォーラム
奥田　良子	京都市地域女性連合会
木原　浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター
枚本　育生	特定非営利活動法人 環境市民
田浦　健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク
高月　紘	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
中尾　雅幸	宝酒造株式会社環境広報部環境課
中田　富士男	京都市ごみ減量推進会議
長畑　和典	特定非営利活動法人 KES 環境機構
長屋　博久	有限会社 村田堂
原　　強	特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都
久山　喜久雄	フィールドソサイエティー
藤野　正弘	特定非営利活動法人 きょうとグリーンファンド
水山　光春	京都教育大学
守屋　ひとみ	京エコロジーセンター環境ボランティア（エコメイト）
八代　康弘	京都市環境政策局 循環型社会推進部ごみ減量推進課
安田　真也	京都市環境政策局地球温暖化対策室

職員名簿（2017 年 3 月 31 日時点）

役職	氏名
理事長	高月　紘
事務局長	浅野　和子
事業部長（事業第 2 課長事務取扱）	谷内口　友寛
事業第 1 課長（国際事業担当課長兼務）	新堀　春輔
エコセン事業課長	遠藤　修作
総務課長	山田　幸司
事業第 1 課職員	佐崎　由佳
〃	澤田　雄喜
〃	杉本　真美
〃	吉田　隆真
〃	多胡　亮
〃	竹内　真道
〃	青山　真弓
〃	杉本　功太
〃	山内　淳
〃	上継　登
〃	笠井　咲希
〃	西垣　智恵
事業第 2 課職員	大原　克巳
〃	山植　剛
〃	大丸　洋一
〃	高瀬　まどか
総務課職員	川渕　学
〃	小畠　修平
〃	網谷　翼

理事長 1 名　事務局長 1 名　事業課職員 19 人　総務課職員 4 人

人づくり作業部会委員名簿（敬称略・50 音順）

氏名	所属
久保　友美	龍谷大学／地域公共人材開発機構 COLPU
下村　委津子	特定非営利活動法人 環境市民
白倉　恵美子	京都市環境政策局地球温暖化対策室
豊田　陽介	特定非営利活動法人 気候ネットワーク
西澤　浩美	京都府地球温暖化防止活動推進センター
西田　勝彦	京都市教育委員会
水山　光春	京都教育大学

地域連携作業部会委員名簿（敬称略・50 音順）

氏名	所属
木原　浩貴	京都府地球温暖化防止活動推進センター
久保　友美	龍谷大学／地域公共人材開発機構 COLPU
高橋　肇子	板橋地域女性会
長屋　博久	有限会社村田堂
新川　達郎	同志社大学大学院
原　強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
山本　和仁	京エコロジーセンター環境ボランティア（京エコサポーター）

パートナーの声

「人づくり作業部会・地域連携作業部会」

2016年度、事業運営委員会に2つの作業部会を設置し、議論を重ねました。各部会では以下のテーマに沿って現状分析と視点の整理を行い、それぞれ必要な要素と方策を模索しました。

・人づくり作業部会…今後協会がすすめるべき人材育成・プログラム開発
・地域連携作業部会…地域社会と連携した環境保全活動の推進

パートナーの声

迷ったら振り出し（原点）に

PARTNER

水山 光春 さん
人づくり作業部会長・
京都教育大学

年々、資源と予算が限られていく中で、エコセンから協会への事業主体の変化に合わせた人づくり事業をどのように再構築するべきか検討することが、人づくり作業部会の主なテーマでした。検討するということは迷っていることの裏返しでもあります。

とはいえ、道に迷ったら、振り出し（原点）に戻るのが、遠回りのようで近道です。ちなみにエコセンの中長期計画は、持続可能な社会を「京都という歴史と伝統のもとで、環境、経済、社会的公正という三つの要素が重なりあいバランスがとれることで初めて実現する社会であり、それはすなわち、低炭素・循環型・自然共生という三つのコンセプトが実現される社会である」と定義しています。私たちは今一度この定義（原点）に立ち戻り、地域の人と人の対話と協働の中で地域をつなぐ場としかけを作り出すために、たとえすべての事業やプログラムに愛着があるとしても、敢えて優先順位をつけることが求められているのではないでしょうか。

パートナーの声

新たな目標に向かって

PARTNER

原　強 さん
地域連携作業部会長・
NPO法人コンシューマーズ
京都

京都市環境保全活動推進協会は「エコセン」をコア事業としながらエコ学区支援事業、JICA関連委託事業など、確実に事業の幅を広げてきた。来館者も10万人台に到達した。スタッフも元気に頑張っている。エコセン設置当初から関わってきた者としては「よくまあ、ここまでやってこれたものだ」という思いがする。

しかし、これで終わりではない。この到達点をふまえながら、また新たな目標に向かってすすんでいかねばならない。京都議定書に続く「パリ協定」のもとで、より実効性の高い活動にレベルアップしていくために、これまで以上に多くの市民、事業者の声と力を集めていくことが求められるだろう。

この点でひとこと。スタッフの力量が高くなっているので、たいていのことは自力でできるかもしれないが、京都には頑張る市民団体、事業者組織が数多く存在する。これらの組織との連携の中からあらたな事業領域や活動スタイルを生みだすための努力が必要とされるのではないか。

私たちのNPOも消費者団体の立場から積極的に事業提案を行いたいと思っている。

協会まとめ

当協会は 6 つの方向性のもと、事業を運営しています。2016 年度の結果は、以下の通りです。

＜方向性①　地域社会との連携を深める＞

地域連携作業部会を設置し、これまでに協会が行ってきた地域支援事業の現状分析や、地域社会のニーズについて分析を行い、協会の目指す持続可能な地域社会の捉え方について協議を行いました。

＜方向性②　パートナーシップをこれまで以上に＞

委員会を立ち上げるには至っていませんが、市民・事業者・ＮＰＯ/ＮＧＯ・行政など多様なステークホルダーと、各事業を進める上で各職員がパートナーシップを意識して事業を進めました。

＜方向性③　人材育成＞

人づくり作業部会を設置し、協会の現状や社会のニーズの分析、環境教育プログラム開発の基本方針の整理、協会として目指す環境教育の在り方と今後のプログラム及び人材育成の方向性について協議を行いました。

＜方向性④　京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及＞

京都における環境教育施設の取組や、低炭素教育・まちづくりにかかるモデルとしてのこどもエコライフチャレンジ事業、エコ学区事業などについて、実践例として国内外で発信できるよう整理し、海外でのプロジェクトでプログラムとして活用しました。

＜方向性⑤　環境学習ツール・プログラム開発力の強化＞

人づくり作業部会を設置し、今後のツール・プログラム開発の基礎情報となる全国の先進的な環境教育の取組事例の整理や協会を含む京都の環境活動・環境教育に取り組む団体の情報の整理などを行いました。

＜方向性⑥　発信力の強化＞

協会としての情報発信の基盤として、英語版の協会ホームページページを作成し、国内外への情報発信の基盤を整えました。また、京エコロジーセンター指定管理業務以外の実績についても、ブース出展や紙媒体で発信しました。

木を見て森を見る　持続可能な地域社会を目指して

（公財）京都市環境保全活動推進協会
事業部長　谷内口　友寛

2017 年は、京都議定書の採択から 20 年目の節目の年となります。2002 年度の京エコロジーセンター開館から管理運営を行ってきた当協会は、4 年に 1 度の選定委員会の評価を経て、2020 年度までの指定管理者として選定されました。京都市の環境保全活動施策の中枢を担う施設としての位置づけられたセンターを拠点に、本報告書に記載した成果を踏まえ、全事業の課題である「どれだけの人に本当に環境マインドを伝えることができたか」を問いながら、日々邁進していきます。

しかしながら、協会が実施する事業領域の 8 割ほどを占める「京エコロジーセンター」という大樹に閉じこもり、世界に目を向けず、自分たちの足元ばかり見ていては、未来はありません。

「木を見て森を見ず」とならないよう、ＥＳＤやＳＤＧｓほか様々な社会課題の解決などにも視野を広げた上で、地域環境活動支援事業や国際事業などの業務拡大も行いながら、持続可能な法人運営を目指していきます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

協会・エコセンの歩み

西暦	平成	協会の歩み（概要）	京エコロジーセンターの歩み（概要）
1994	6		京都市一般廃棄物処理基本構想策定 →　ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ
1995	7		国連気候変動枠組条約第 1 回締約国会議（COP1　ベルリン）
1996	8		新京都市環境管理計画策定　→　COP 記念センター構想
1997	9		国連気候変動枠組条約第 3 回締約国会議（COP3　161 カ国参加） →　京都議定書を採択
1998	10		環境学習・エコロジーセンター（仮称）基本構想策定懇話会を設置
1999	11		環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定
2000	12		建設工事着工
			環境学習・エコロジーセンター（仮称）事業検討委員会・企画委員会を設置
			→　市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成 （現在 : 事業運営委員会）
2001	13		京エコロジーセンターの環境ボランティア養成を開始（9 月）
		財団法人京都市環境事業協会設立 （2 月）	
2002	14	京エコロジーセンターの運営開始 （4 月）	京エコロジーセンター開館（4 月）
2005	17		京都議定書発効（2 月 16 日）　京都市地球温暖化対策条例施行（4 月 1 日）
			京エコロジーセンター中長期計画を策定
2006	18	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第 1 期）	
2009	21	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第 2 期）	
2011	23		京エコロジーセンター第 2 期中長期計画策定（3 月） →　2015 年度事業プロジェクト到達点を明記
			改正京都市地球温暖化対策条例施行（4 月 1 日）
			→　温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化 2020 年　25% 削減、2030 年　40% 削減（1990 年比）
2012	24		京エコロジーセンター開館 10 周年（4 月 21 日）
2013	25	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第 3 期）	
2014	26	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称（4 月 1 日）	京エコロジーセンターの開館以来の来館が 100 万人を達成（7 月 18 日）
2015	27	中期計画策定	京エコロジーセンターの年間の来館者が初めて 10 万人を達成（3 月 28 日）
			国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議にてパリ協定採択
2016	28		京エコロジーセンターの年間来館者数が 2 年連続 10 万人を達成（3 月 26 日）

インフォメーション

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

- **京エコロジーセンター WEB サイト**　http://www.miyako-eco.jp
  ブログも是非ご覧ください　http://www.miyako-eco.jp/blog/
- **京エコロジーセンター携帯サイト**　http://www.miyako-eco.jp/m/
- **京エコロジーセンター Facebook**　http://www.facebook.com/miyakoeco
- **京エコロジーセンター Twitter**　@miyako_eco

一緒に持続可能な地域社会を築きましょう！

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、京エコロジーセンターの管理・運営をはじめとする事業を通し、これまで様々な経験やノウハウを蓄積してきました。それら積み重ねとスタッフそれぞれのスキルを活かして、当協会は皆様の環境学習・環境保全活動に関する多様なニーズにお応えします。

当協会は経験豊富な講師の派遣事業を行っています。環境を切り口にした講座やワークショップのほか、セミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境学習・環境保全活動の場づくりのお手伝いをします。

当協会の事業経験・ノウハウを活かしたコンサルテーションも行っています。環境学習施設の運営や展示の開発、環境団体等の市民活動団体の支援やネットワーク化、ボランティア制度をはじめとする市民参画の仕組みづくり等、対応できる内容は多岐にわたります。

申込方法	貴社名・ご担当者名・電話番号・メールアドレス・お問い合わせ内容を明記の上、HP もしくは電話・直接来館にて承ります。

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会 HP

様々な情報発信をホームページから行っています。
是非、アクセスしてみてください。

URL : https://keaa.or.jp/

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075(641)0911 FAX.075(641)0912

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C014969
VEGETABLE OIL INK
Waterless Printing Naturally

●用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
●インキ：植物油インキ
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

発行：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
発行：2017年7月